

海を越えてひろがる交流の輪



Public Information

広報 vol.5

1996. 4

KAKOGAWA INTERNATIONAL ASSOCIATION

財団法人 加古川市国際交流協会



ワイタケレの学校で折り紙を教える生徒達

中学生海外派遣

◆ CONTENTS ◆

(財)加古川市国際交流協会 1995年 国際交流レビュー	2
阪神・淡路大震災のお見舞い・義援金届く	5
国際料理教室レシピ紹介	6
マリンガからただいま!	7
I LOVE KAKOGAWA	8
日本語講師養成講座/在住外国人の日常生活をサポートします	9
インフォメーション	10

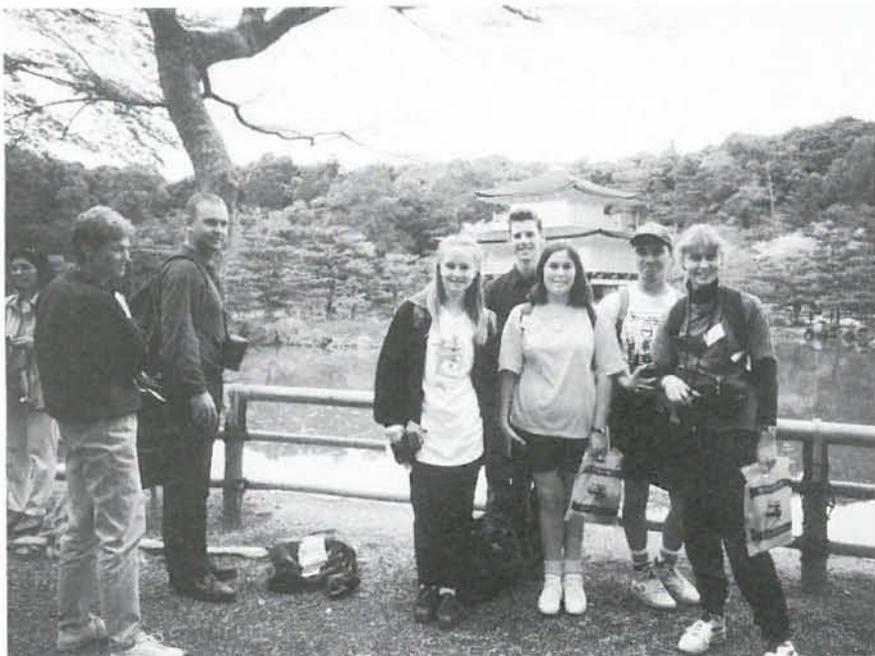
4月 ワイタケレ市中学生来加 (4/22~5/8)

姉妹都市ワイタケレ市より学生6人、引率者4人が加古川市を訪問しました。

この事業は今回で4年目。

昨年ニュージーランドに派遣された生徒の家にホームステイし、市内中学校訪問をはじめ、総合文化センター・立杭陶の郷・フラワーセンター・加古川消防署見学などもりだくさんのプログラムにみんな大喜び。

写真は日帰り京都の金閣寺を訪ねた時の様子。



(金閣寺を背に記念撮影)

まばゆいばかりの黄金の建物に皆感動し、さかんにシャッターをきっていました。この日はJR、地下鉄、タクシー、新幹線、バスと5種類もの乗り物に乗り、日本の交通機関を十分堪能した一日でした。

ともかくにもお世話してくださったホストファミリーのみなさん、ありがとうございました。

4月 在住外国人日本語講座開講

(4/11~翌3/21)

日本語を学ぶ外国人のための講座を開講しました。

講師は平成5年度の日本語教育ボランティア養成講座の修了生を中心に12名。



(開講式で少し緊張ぎみの受講生 鹿兒川荘)

現在4クラスで生徒は35名。

中には相生市、神崎郡など遠方から通ってくる方もいます。

ときには先生方をう〜ん！とうならせる質問がとびだしたり、笑いがあったりとアットホームな雰囲気です。授業が進められています。

平成8年度は4月に開講しますので、知りあいの外国人に声をかけてあげてください。

また、教えることに興味のある方は、ぜひ見学に来て下さい。

8月 第5回ワイタケレ市中学生海外派遣

(8/14~8/26)

毎年恒例の青少年海外派遣。

今年も市内13校から1人ずつ選ばれた中学生が、4回の事前研修を終えて、ワイタケレ市へ派遣されました。

現地ではホームステイし、学校訪問ではのびのびと自由な校風、広大な敷地にみんな圧倒されていました。ステイ先の生徒と共に出かけた2泊3日の旅行では、南十字星に歓声を上げ、NZの国鳥キウイを見たり、土ボタルの神秘的



(タウポ湖畔でのひとコマ)

な美しさに感嘆したりと言葉では言い尽くせないほどの素敵な思い出を作りました。最初は、気候が逆で英語ばかりの生活にそれぞれ日本を恋しく思ったようですが・・・。

この体験を通じて、みんなちょっぴり人間的に成長したかな？

8月 第4回マリンガ市青年海外派遣

(8/18~8/28)



(サンパウロのサッカー競技場にて)

今回も元気いっぱいの8人の青年がブラジルを訪問しました。

地球の反対側と言われるだけあって約24時間の飛行機の旅にみんなぐったりしたようです。

けれども、現地ではサンパウロ観光、マリンガ市でのホームステイ、リオデジャネイロ観光など、連日のハードスケジュールを難なくこなし、無事に帰国しました。

めったに行くことができない遠い国。しかし日系人を中心に日本の古き良き伝

統が受け継がれていることを学んだり、それぞれに何かを吸収してきたのではないのでしょうか。

この青年派遣は、加古川市に在住する18歳以上30歳以下の方なら、どなたでも参加できますので、われこそはと思われるあなた、次回のご応募お待ちしております。

9月 ふれあい国際料理講座スタート

(9/29～11/24)

各国の講師を招いてお国自慢の家庭料理を教わるふれあい国際料理講座が今年も開催されました。

今年教えて下さったのは、タイ・ニュージーランド・中国・インド・カナダの5か国の出身者。

第2回目は来日中のニュージーランドのシェフがプロの腕前を披露してくれました。

見事な手さばきに参加者一同感嘆の声。あっという間に豪華なメニューが出来上がりました。



(マーク・レイハナさんのあざやかな腕前 青少年女性センター)

ほとんどの料理が思ったより簡単に作れるとあって、さっそくご自宅で挑戦された参加者が多かったほど。食べることが好きな人も、作るのが好きな人も楽しめる講座です。それぞれの講師とのふれあいで素敵な交流ができました。

この講座は毎年秋に開催していますので、次回あなたも受講してみませんか？

1月 マリンガ青年来加 (1/24～1/28)



(マリンガ市の青年達 プラザホテル)

1月20日に来日し、東京・広島観光を終えた安永団長以下9名のマリンガ市青年が1月24日から28日まで加古川でホームステイし、ひとときの交流を深めました。

来加した日は市役所訪問の後、当協会主催の歓迎パーティーに参加し、翌日からはホストファミリーであるブラジル派遣の青年が中心となってプログラムを組み、いっしょに震災後の神戸を訪れたり、ニッケ乗馬クラブで遊んだり、加古川歯科センターや姫路城を見学したりしました。

28日に瀬戸大橋を観光後、次の訪問地である鳥取へ旅立って行きました。

2月 第4回障害者海外派遣 (2/12~2/19)

当協会では、毎年障害を持つ市内中学3年生を海外へ派遣していますが、今年もレストランでの食事訓練、ホテルでの宿泊訓練など4回の事前研修を済ませ、ニュージーランドの姉妹都市ワイタケレ市を訪問してきました。

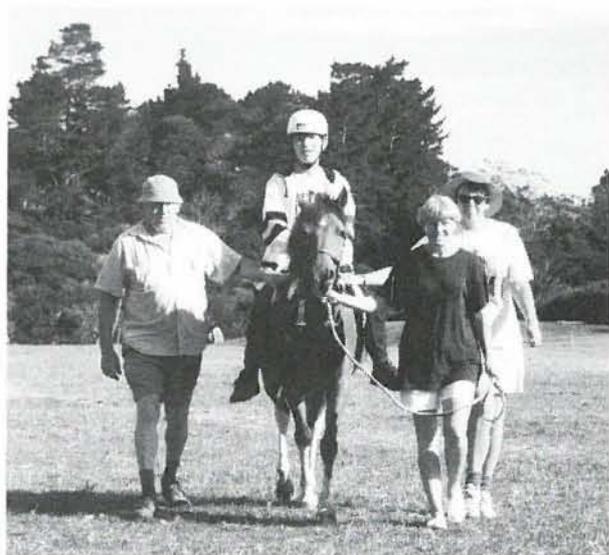
派遣生は、現地で乗馬やカヌーに挑戦したり、障害児学級の生徒たちとの交歓会を開いたりしました。

ニュージーランドは障害を持つ人々が暮らしやすいことで知られており、昨年度も同様のプログラムを実施しました。

親元を離れ、外国でのびのびと過ごすことによって派遣生の自立を促すのが目的です。

過去の参加者の保護者からは、子供がひとまわりもふたまわりも大きくなって帰国した等、うれしい報告を受けています。

このような事業は全国的にも珍しく、各方面から注目されています。



(ボランティアの人々が乗馬を指導 ワイタケレ市)

震災のお見舞い・義援金届く

未曾有の被害をもたらした大震災から1年が経ちました。

協会にも海外から多数お見舞状や義援金が届きました。ここでご報告しましょう。

〈義援金〉

ブラジルのマリンガ文化体育協会から、震災復興の一部に役立てて下さいと14,000ドルを昨年8月青年海外派遣団に現地で託され、『兵庫県阪神淡路大震災復興基金』にお送りしました。

また中国桂林市からも日本円で50万円義援金を頂き、日本赤十字社兵庫県支部に託しました。

〈お見舞状〉(順不同)

ワイタケレ市長

故ワイタケレ市国際交流協会会長

(1995年3月逝去)

マリンガ市姉妹都市協会会長

マリンガ文化体育協会会長

桂林市市長

桂林市外事弁公室

アメリカ市民スポーツ連盟

駐日パレスチナ代表

みなさまどうもありがとうございました。

国際料理教室レシピ紹介

ふれあい国際料理教室で簡単に作れる！と好評だったレシピを二品紹介しましょう。
どちらも驚くほど簡単にできるのでぜひ試してみてください。

【フルーツ・ストルーデル】 ●ニュージーランドのシェフ、マークさんの一品

★材料（4、5人分）

リンゴ1個
キュウイなど（旬の果物）1個
砂糖、水
パイシート（10×20cm位のもの）
レーズン
シナモン } お好みに
レモン汁 } 応じて

- フルーツの自然の甘みを活かすので砂糖は控え目で結構です。
- パイシートはスーパーの冷凍食品売り場で手に入ります。

★作り方

- ① リンゴとキュウイを小さく切り、水と砂糖と一緒に鍋に入れ、柔らかくなるまで煮る。
- ② 火からおろして冷まし、レモン汁・シナモンを入れ、混ぜる。
- ③ パイシートを広げ、砂糖を少し生地にかける。
- ④ ペーパータオルで余分な水分を取ったリンゴとキュウイをパイシートにのせる。
- ⑤ パイ生地の手前を卵白でのり付けして留め、表に切り目を入れ、卵白をはけで塗り、180℃に熱したオーブンで、約15分焼く。



【トマトと卵のスープ】 ●中国出身のハオさんの一品

★材料（4人分）

トマト 2個
卵 2個
中華スープの素 大さじ1
あさつき
胡麻油 少々
水、塩 少々

★作り方

- ① トマトは薄く切り、卵をほぐす。
- ② 鍋に水とスープの素を入れ、沸騰したらトマトを入れて、塩で調節する。
- ③ 再び沸騰してから卵を入れて火を止める。
- ④ 胡麻油とあさつきを入れて出来上がり。



- あさつきの代わりに刻んだねぎでも可能です。

マリンガからただいま！

岡田 聡子

平成6年の5月から、ブラジルの加古川・マリンガ外国語センターで日本語教師をしていた岡田さんが昨年末に帰国されました。そこでさっそく現地での様子を報告してもらいました。

ただいま！ 昨年の12月25日、私は1年8か月の間に体験した貴重な思い出を持って加古川に帰ってきました。

ブラジルに渡った最初の半年は何がなんだかかわからず、無我夢中で学校運営に励み、24時間共に過ごした日系2世の先生（坂本裕美先生）と話すことは、自然と学校と生徒の事になっていました。試行錯誤を繰り返しながら授業をしてきましたが、最終的に一番うれしかったことは、生徒が頑張っ「お話大会」（子供のスピーチコンテスト）に参加し、全国大会までいってくれたことです。一昨年まではパラナ大会（マリンガ市の属する州での大会）でもほとんど入賞できず、他の町と比較するとずいぶん遅れをとっていました。しかし、94年加古川・マリンガ外国語センターからパラナ大会に8名が出場し、そのうち7名が入賞し、各3組の優勝をすべて当校の生徒が獲得してしまいました。優勝発表の瞬間、私達教師が飛び上がって喜んだのは言うまでもありません。

幼年者は、私の帰国直前でも、返事はポルトガル語が多いのですが、質問に対する答えは合っていたので、着実に私の日本語をキャッチしていたのでしょう。入学当時全く日本語がわからなかった子供たちも、さすがに毎日うるさいほどの日本語のシャワーを浴びせられると……。子供の語感、やはりすごいと感心すると共に、『もう少し、この子供たちに教える時間があれば……。』と、後髪を引かれる思いで、帰国の途に就きました。

余談になりますが、ブラジル滞在中、幸運がもたらしてくれたすばらしい出来事が続きました。サッカーのワールドカップでブラジルが優勝したとき、人々の歓喜する姿を目前で見ることができ、サッカーに対する情熱のすごさを肌で感じることができました。

また、一生に一度の思い出となる、あのリオのカーニバルへの参加。ブラジル人でも参加するのは困難で、私は昨年出場できた唯一の日本人ではないでしょうか。

ブラジルで暮らしている間、時間の許す限りブラジルの文化を学び、日本の文化を紹介しました。日本語はもちろんのこと、絵、工作、折り紙、日本的な遊び、バスケットボールや野球、書道、加古川音頭にいたるまで、たくさんのお話を子供たちに教えていました。

私の帰国後、マリンガに日本人の日本語教師はいなくなります。将来日本とブラジル、加古川とマリンガの掛橋になる人物を育てていくためにも、日本人による日本語教育の必要性を痛感しました。

最後になりましたが、マリンガ市民、アセマ役員の皆様、そしてこのような機会を与えて下さった加古川市国際交流協会の皆様にも感謝の念を表したいと思います。



（後例左が岡田さん）

I LOVE KAKOGAWA ②

～ 在住外国人紹介のページ ～

私たちの住む加古川市にも、たくさんの外国人の方々が住んでいます。しかし、近くに住んでいても、なかなか彼らと接する機会が少ないのではないのでしょうか。このページでは地域に住む外国人をお迎えして、加古川での暮らしのことなどいろいろな話をお伺いします。

今回のお客様

チャンデン・デブさん
シバーニ・デブさん ご夫妻

インド出身

Q：まずは簡単に自己紹介をお願いします。

A：私とチャンデン（夫）は東インドで生まれ育ちました。エンジニアとして高砂の三菱重工に勤めるために来日した夫と加古川に住んでいます。私は家事をして過ごしています。

Q：チャンデンさん、会社ではどのような仕事をされているのですか。

A：主に発電所設備のデザインなどの設計をしています。

Q：シバーニさんは日本に来る前どんな仕事をしていたのですか。

A：幼稚園で英語の先生をしていました。

Q：お二人にとって加古川の印象は？

A：すばらしい街です。人々はとても協力的ですし、（欲しいものは）何でも手に入るので本当にここでの生活を楽んでいます。

Q：週末はどんなことをしていますか。

A：たいてい日本人やインド人の友達の家遊びに行ったり、彼らを自宅に招いたりしています。時々電車で遠くへ旅行に行きます。

Q：日本人の良い所・悪い所は？

A：誠実で勤勉で正直な国民だと思います。

（気をつかってか、悪い所はおっしゃいませんでした）

Q：私たちはインドというところの固定観念がありますが、母国について一言でまとめるとどんな国ですか。

A：日本人はインドというところ危険、貧しい等のイメージを持っている人が多いのですが、実際は宗教・言語・習慣など多様性と統一性のあ

る国だと思います。

Q：好きなテレビ番組は？

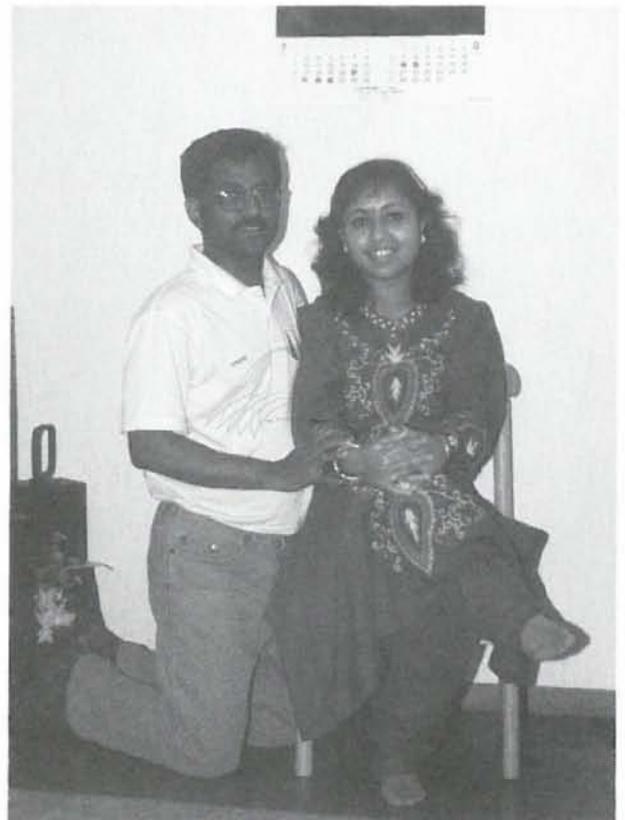
A：（シバーニさん）マジカル頭脳パワーやウェディングベルというお見合い番組をよく見えています。

Q：最後に加古川の人々に何かメッセージをお願いします。

A：加古川のみなさんには親切にしてもらってとても感謝しています。特に協会のみなさんには何かと必要な情報が必要なとき、手助けしてもらって感謝しています。

：どうもありがとうございました。

他にもユニークな話をたくさん聞くことができました。二人とも日本語はあまりできないとおっしゃいますが言葉の壁を越えて、ほのぼのとしたステキなご夫妻だということがよく伝わりました。

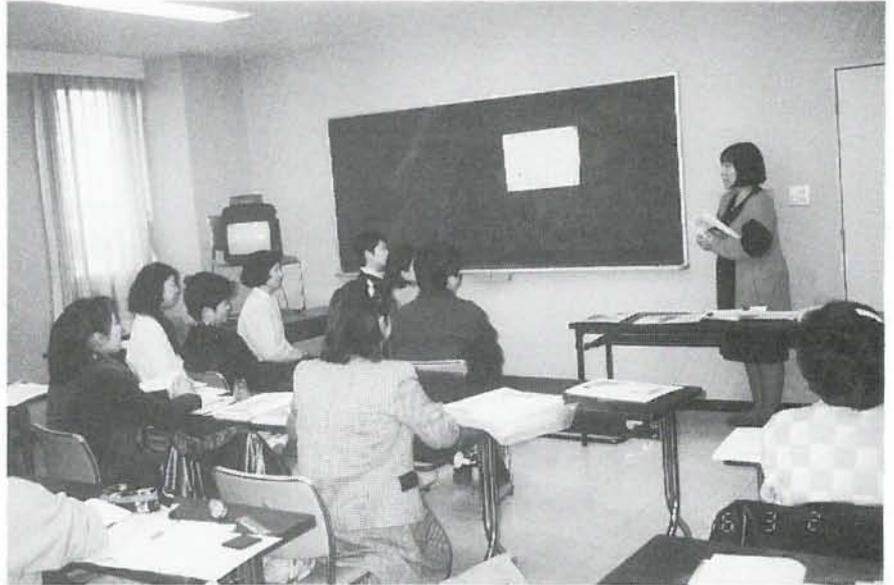


（別府町のご自宅にて）

日本語教育ボランティア養成講座

当協会では外国人のための日本語講座を開講して、はや2年になりますが、日本語を学びたいという外国の方が増えるにしたがい、彼らを教えるボランティアを新たに養成するため、日本語教育ボランティア養成講座を開講しました。

平成8年1月20日から3月2日まで毎週土曜日の午後計7回の講座に多数の応募があり、抽選で30名の方に受講していただきました。



(授業風景 青少年女性センター)

講義内容は日本語教育機関で広く使われている教科書を用いて、初級レベルの日本語文法・構文のポイントを、媒介語を使わずに教える方法を学びました。また、受講者の方々には講師の授業を聞くだけでなく、実際に模擬授業をしてもらうなど実践的で、密度の濃いプログラムになりました。受講者のみなさんは母国語として自然に身についた言語を他国の人に教える、ということの難しさを改めて感じたようです。

今後のみなさんの活躍が期待されます。

在住外国人の日常生活をサポートします

《ポルトガル語版・中国語版生活ガイドブック》

慣れない異国での暮らしに少しでもお役にたてれば、とポルトガル語版生活ガイドブックを作りました。日系人を中心にブラジルから多数の労働者が加古川に住んでいますが、彼らの母国語がポルトガル語なのです。

内容は加古川市の概要はもちろん、医療・交通・各公共機関など日常生活に必要な情報をまんべんなく掲載しています。また、中国語版生活ガイドブックも現在作成中です。

《中国語版ガイドマップ》

協会ボランティアの協力によって、加古川市の地図と市内の見どころをカラー写真で掲載した、中国語版ガイドマップが出来上がりました。これさえあれば市内のどこでも気軽に出かけることができるでしょう。

この他に英語版、ポルトガル語版のガイドマップがあります。

INFORMATION

眠っていませんか？ 使用済みテレホンカード

使用済みのテレホンカードやオレンジカードを回収しています。

集まったカードは、日本国際ボランティアセンター（JVC）を通じて、カンボジアの復興に役立てられます。協会まで持参または郵送して下さい。皆様のご協力をお待ちしています。

ご協力ありがとうございました

加古川市立氷丘南小学校の児童をはじめ、市民の皆様から、たくさんの使用済みテレホンカード等届けられました。どうもありがとうございました。

ボランティア募集

協会の事業をお手伝いして下さるボランティアを募集しています。

- ① ホームステイボランティア
外国人のホームステイ受け入れ
- ② 語学ボランティア
各種交流事業での通訳、ガイド及び翻訳
- ③ 各種サービスボランティア
華道、茶道、書道等の日本文化の紹介及び日本語指導など

ふれあいティータイム

加古川にお住まいの在住外国人をゲストに、ふるさとのことや日本での暮らしなどいろいろなお話をうかがいます。

- と き 平成8年5月22日（水）
午後2時～4時
- ところ 青少年女性センター
- 定 員 15人（申し込み多数の際抽選）
- 申込み 往復はがきに氏名、住所、年齢、電話番号をお書き添えの上、当協会『ふれあいティータイム』係までお送り下さい。
- 締 切 平成8年5月9日必着

賛助会員募集

協会では、市民の皆さんによる国際交流活動を進めるため、賛助会員制度を設けています。国際交流に賛同くださる方、また支援して下さる方、どうぞご加入ください。

- 会 費
個人会費 1口 2,000円
団体会費 1口 5,000円
法人会費 1口 10,000円
- 申込み 協会事務局、市内各公民館、市役所案内などに申込書が置いてあります。詳しくは協会までお問い合わせください。

日ごとに暖かくなってきましたが、みなさんお元気ですか。震災を期にボランティアという存在が注目されるようになりました。

一人一人が自分のできる範囲で無理なく活動できる土台がよりいっそう整えばいいですね。

今回の広報はいかがでしたでしょうか。いっそうの充実を図るために、皆様のご意見、ご感想をおきかせ下さい。

1996年4月発行

(財) 加古川市国際交流協会

〒675
加古川市加古川町北在家112-1
TEL 0794-25-1166
FAX 0794-25-0200